

平成22年5月26日

浜田市議会議長 牛尾 博美 様

### 産業建設委員会行政視察報告書

下記のとおり、視察を行いましたので、その結果を報告致します。

#### 記

1. 期 間 平成22年5月10日（月）～5月12日（水）
2. 視察先 静岡県伊東市・東京都八王子市・神奈川県秦野市
3. 参加者 山崎 晃 委員長 ・新田 勝己 副委員長 ・笹田 卓 委員  
布施 賢司 委員 ・山田 義喜 委員 ・田村 友行 委員  
濱松 三男 委員 ・牛尾 昭 委員 ・高見 庄平 委員

#### 4. 調査の概要

- ①【静岡県伊東市】 産業活力の向上と伊東の海、魅力再発見について
- ②【東京都八王子市】 複合文化施設「川口やまゆり館」の視察について
- ③【神奈川県秦野市】 「農」の担い手育成事業—はだの市民農業塾—について

- ①【静岡県伊東市】 視察日 5月10日（月）13:35～15:35  
場 所 道の駅「伊東マリンタウン ポートセンター」  
説明者 伊東マリンタウン(株) 湯澤薫代表取締役（歓迎挨拶）  
三間雅之 観光経済部産業課長・  
藤原廣臣 課長補佐兼農林水産課長・  
久保田雅則 観光課観光施設係主査・  
稲葉育子 市議会事務局主査

#### 市の概要について

伊東市は天城連峰を背にして、伊豆半島の東に位置し相模湾に面し、夏涼しく冬暖かい避暑、避冬の地であるとともに、城ヶ崎海岸などの景観にも恵まれた風光明媚な土地柄である。また、市内の至るところに、豊富で良質な温泉が湧き出ており、古くから湯治場として知られ、訪れる多くの人に安らぎを与える人口72,400人の国際観光温泉文化都市である。

#### 調査目的について

浜田市と同じような海、温泉、景観といった市の魅力がたくさんある市でもあり、内閣府の地域再生基盤強化の港整備交付金で取り組まれている3つの港（1種、2種）の漁港整備

や連携を強化することにより、市の魅力の1つである海の利活用を活性化させ、観光都市伊東の基幹産業である観光業と水産業（一次産業）をどう結びつけるかを目標にして、6次産業に向って着実に進化していこうと「産業活力の向上と伊東の海、魅力再発見」を計画された。これまで取り組まれている事業の経過や成果、また、地域産業・観光の拠点づくりを図るため開設された道の駅・海の駅「伊東マリンタウン」の開設効果などを調査した。

### 調査内容について

伊東港や、市内各漁港は、地域の産業を支える重要な基地となっているため、地域再生計画の中で地域の課題を目標にかかげて港整備交付金で港湾施設整備(伊東港)、漁港施設整備(宇佐美漁港、富戸漁港)を平成21年度から整備事業を行なっている。3港を総合的に整備することにより、伊東市域沿岸において観光交流の海上ネットワークを形成し、海洋レジャー(ボート、遊覧船、ダイビング、フィッシング)とともに観光資源として海の魅力を高めるほか、安全係留の確保や水産物の安全で安定的な供給を実現することとして取り組んでおられます。ダイビングは真冬でもでき、遊覧船は冬の時期1ヶ月間位休みだがほぼ毎日就航している。島渡しは定期航路があり観光ルートが確立されている。浜田市も過去に遊覧船があったのに生かしきれなく廃船されたが、今一度海の利活用を考えれば海洋レジャーが必要な時期にきているのではないかと思った。伊東漁協で水揚げされる主な魚類はいわし、さば、あじの青物であり平成21年度総水揚数量6,422tの内5,000t(78%)を占めます。魚価が非常に安いのかそのほとんどを市内で消費している。食材として加工品として多くの人に供給できるよう漁協に委託してB級グルメの研究開発をしておられ、旅館ホテルや飲食店での販路開拓、市内の学校給食への食材販売を実施している。(中学校1、小学校10:魚食品加工会社が伊東市にはない)

なかでも、郷土料理である、新鮮なさば・あじをすり身(ミンチ状態)にして好みに合わせた味付けをして油で揚げる魚コロッケ「ちんちん揚げ」は地元だけではなく観光客からも好評であるため、名物料理として普及を図っている。こうしたことから、浜田市とおおきく違い、観光業のために水産業がある市であることがわかった。



「伊東マリンタウン」ポートセンター



建物の玄関は海側(右)、道路側は裏こなる



足湯(あったまりーな)43m

地域産業・観光の拠点づくりを図るため、平成13年に道の駅・海の駅「伊東マリンタウン」を開設された。

施設内にはバザール棟(お土産・食事)、スパ棟(天然温泉・お土産・食事)、ポートセン

ター棟（遊）がある。

スパの中にある食堂の一番人気はアツアツ・ホクホクの魚コロッケ、海を思いっきり満喫するために海中遊覧船や海賊遊覧船、マリンロードや展望デッキがあり、伊東温泉らしく関東最大級の長さを誇る43mある無料の足湯や、海が一望できる大浴場や露天風呂をそろえておられ、旅の行き帰りに立ち寄りたくなるような、リラックス&リフレッシュをあたえてくれる施設となっていた。首都圏から電車・車・クルーザーで比較的近いので入り込み客数は多く、ハード・ソフト面が充実してきた平成21年度の利用者は215万人でありここ2年間は黒字である。展望デッキから伊東の海をみると自然のロケーションが抜群な所は、観光産業において7割は勝ったようなものであるが、全体的に施策が伴わなければ観光客は継続的にきてくれない事もわかった。

浜田市も伊東市に負けないぐらいに良い所や施設がたくさんあるのにまだまだ生かしきれしていない。又共通の課題である水産業の現況と問題は「担い手」の不足であり、就労者がだんだん高齢化になり次を担う方がいない、それにより今までやっていた漁業がどんどん衰退していく。あらたな漁業というものだけではなくて、若い人も取り組みやすい観光に結びつけた漁業と一緒にやっていく事も大事であると思った。

- ②【東京都八王子市】 視察日 5月11日（火）9:00～11:00  
場 所 川口やまゆり館  
説明者 田中好雄 川口やまゆり住民協議会会長・  
石井里実 教育委員会川口図書館館長・  
設楽いずみ 教育委員会学習支援課課長・  
久保貴志 議会事務局調査課主査

### 市の概要について

八王子市は都内26市で最大の面積（186k㎡）、地域の4割が市街化調整区域で緑が大変豊かなところで国定公園の高尾山は山歩き森林浴ができ世界で1番登山客が多い山として、フランス・ミシュランが3星をつけて世界に紹介しているところでもある。人口56万人、年間3千人の人口増加をしている。織物の町として全国ネクタイ生地の6割を占めており、近年は電子機器や精密機械などの多摩シリコンバレーで企業誘致をしている。

又、東京都立大学や中央大学など21の大学や短大があり11万人が通い勤める国内有数の学園都市でもある。

### 調査目的について

浜田市の旧浜田医療センター跡地の有効活用方法として、建設当時人口5万6千人規模の八王子市川口町が住民を対象とした生涯学習センター、図書館、市民センターが集合した市の複合施設（川口やまゆり館）を秋川街道から少し奥まった地域で、住宅と田園風景に囲まれた閑静な場所にと建設されました。現在当市において計画中の図書館を核とする複合文化

施設構想「私達のふるさとに良いものを」のモデルに近いと民間から答申をうけており、受け持ちの委員会から少し外れていますが土地整備もあり全体のレイアウトからみても総合的に判断しなければいけないと思い調査しました。

### 調査内容について

八王子市の基本構想計画の八王子21プランで各地域に市民センターを17つ作り、その中で川口やまゆり館は15番目にできた施設です。他の市民センターと違うところは地域の要望で、図書館と公民館を併設している所である。建設にあたっては、社会推進協議会や町会連合会の22名の検討委員の内、7名は女性をいれて女性の意見を多くとり入れたのと、緑を大事にする事を心がけ緑陰の図書が出来るように、外には藤棚(25m)を設けて読書が出来るようにしてある。ツツジや樹木が多く落ち着いた環境である。交通の便としては、近くにバス停があり、駐車場が他センターに比べて多く利用者にとって便利である。(66台、他20台、駐輪場40台)年間29万人利用(21年度)館まつり、ひなまつり(つるし雛)、七夕まつりなどが利用者増になっている。



川口やまゆり館会議室



図書館の蔵書数は6万冊



緑陰の図書ができる、藤棚やツツジ

街並み景観形成として、まわりとマッチさせるため樹木を多くし高い建物はつくりださない会館とした。(敷地面積8、182㎡、建物面積2、451㎡の2階建て、八王子市八十八景第78番にも指定されている魅力的な会館である)入り口付近の円形を活かした円形広場では、コンサートや演芸、催し物会場として使用可能な状態にしている。図書館内では「どこになにがあるか」をわかり易くするために、吊り下げ案内板表示している。

飲食の設備はなく、館内に自販機があるのみで市民センターの一部で持ち込み飲食OKにしている。

3つの部署が1つであるためそれぞれ修繕費をもっているが、図書館が一括して管理している。(決算書上は別)

3つの施設の休館日がそれぞれ別々であり、利用しづらいとの意見でH20年に1つにした。(第2、第4火曜日)

現時点の問題点は、植え込みの囲いが鋭角にでており危ないので高齢者や子どもに対して配慮すべきであり修理する必要がある。図書館以外の施設案内看板が小さいようなので、大きくすることも考えている。

女性の意見を取り入れて造ったわりには、厨房の利用率が低いのでPRしなくてはならない。

問題や苦情は3つそれぞれあるが建物が1つなので住民が一番言いやすい所に言ってくる

ため苦慮している。

川口やまゆり館の施設案内（市民センターは市長部局、図書館・公民館は教育委員会が管轄）  
市民センターには、体育館が設けてありミニバスケットをする子供達で賑わっているが、あくまでもスポーツありきではなく、地域の方がいろんな事で気軽に体育館を使っていたく事が目的。多目的室（ダンス他）音楽室（カラオケ）調理室、会議室、和室、プレイルーム。  
（幼児専用）

使用料（会議室 AM450円 PM2H で300円、体育館は全面2H で1、800円、全日9、000円）

図書館には、くつろぎ図書コーナー、児童図書コーナー、静かな一般図書コーナー、AVコーナー

公民館には、スロープ様式の視聴覚室（ミニ映画館）学習室、創作室、和室、保育室  
使用料（学習室 AM600円 PM800円、視聴覚室 AM1350円 PM1800円）

今回調査してみて思ったことは、3つの施設が1つの所にある事は利用者にとって大変良いことであり、内容も素晴らしいと思いました。町会で選抜された人が住民協議会を組織して参加されており、コミュニティ活動の場としても活用されていてあらためて地域の一体感を強く感じた。又、必要な人材育成を全体でやっておられ八王子市川口地区の早期の取り組みには見習うところが多い。住民の財産となる土地・建物など十分時間をかけて討議する必要があると感じた。

- ③【神奈川県秦野市】 視察日 5月11日（火）14:00~16:00  
場 所 秦野市役所本庁会議室  
説明者 高橋文雄 市議会議長（歓迎挨拶）・  
高橋喜勝 議会事務局次長補佐・  
安藤美香 議会事務局書記・  
石川広行 はだの都市農業支援センター長・  
吉藤 直 はだの都市農業支援センター

#### 市の概要について

秦野市は人口170,000人、新宿・横浜から約1時間、北に丹沢山地が連なり、南には渋沢丘陵が東西に走る、神奈川県内唯一の典型的な盆地を形成しており、地下には天然の水がめとなって山々からの水を蓄えており、盆地の各所で地下水が湧き出ている名水が飲める。水道水も職員で開発した機械で地下水を浄化して75%程度利用しています。落花生と桜漬（桜茶）が有名な市であり5月23日には第61回全国植樹祭が開催されました。

#### 調査目的について

浜田市も市と県とJAで、農業支援センターをつくりながら農業に力をいれているところで

はあるが、農業を取り巻く環境は農地所有者意識の変化、農業従事者の高齢化、後継者不足など総合的な農業生産力の低下が顕著となっています。そこで中核的な農家をはじめとする様々な農家や一般市民の参画による多様な「農」の担い手育成事業の「はだの市民農業塾」について調査した。

### 調査内容について

はだの都市農業支援センターは平成17年に設置して5年経つが、設置時には島根県出雲市の取り組みを参考にされた。元気な農業をめざして、市・農協・農業委員が集まり窓口の一本化（ワンフロア化）にして支援してきた。活性化（地域づくり）、特性を生かした（ものづくり）、担い手育成（人づくり）に取り組み「はだの市民農業塾」を実施してこられました。

（露地野菜栽培を主）

＊農業参画の形態に応じた3コースの農業研修を実施し、市民農業参画の推進による多様な農業の担い手を育成

【ア】新規就農コース（10名）新規就農希望者⇒定年帰農、定年就農を目指す方。農業参画コースからのステップアップ等。研修終了後営農計画書を審査して10a～40aまでの農地斡旋 受講料20,000円

【イ】農業参画コース（20名）援農及び将来的な就農希望者⇒援農者登録希望者や基礎セミナーからのステップアップ、翌年度の新規就農コース希望者 受講料10,000円

【ウ】基礎セミナーコース（30名）市民農園等の利用希望者⇒農業に興味があり、将来、農業に係わりを持つために基礎知識を習得したい方等 受講料5,000円



秦野市役所前にて



JA 経営の「じばさんず」



広々とした農産物直売所

これまでの成果（新規就農コース）4年間の実績

■ 就農者：27名（受講者36名）

■ 面積：56,422㎡（平均2,090㎡/人）【うち、荒廃農地解消7,918㎡】

■ 課題（新規就農コース）

個人の耕作状況が確認できないため、実力の見極めができない⇒雑草を繁茂させるなど、借受けた農地の管理が不十分な人が多くなっている。

■ 課題（農業参画コース）

研修終了後、援農者登録するも援農を実施しない⇒カルチャースクール的な感覚で受講されている気がする。

以上の課題解決や新しい取り組みを勉強するため、先進地訪問を考えておられる。（浜田

市にも行きたいとの事)

作った物を売る販路として平成14年に県内最大の農産物直売施設として地元で取れたものを地産地消に向け「じばさんず」をオープンした。朝採りの「新鮮さ」、つくり手の顔が見える「安心感」、産地直送の「安さ」を売りにして平成20年度の売上は956、341千円 来場者は567,024人 出荷者総数は740名。

時期的に秦野にない商品や産地の特産品も取り扱っており、JA産地間提供している。(JA弘前他21以上)

今回の調査で言えることは受講料を払ってでも農業をしたいという都会型農業の取り組みがわかったのと課題もわかった。農業をとりまく環境はどこもたいへん厳しいものがある一方、若い女性のグループや異業種参入で農業に取り組む個人や企業が多くなってきていて、6次産業につなげていけばビジネスチャンスもおおいにある分野だと感じた。

視察報告者：布施 賢司